

<福島県教育長賞>

未来の社会と税金

須賀川市立第一中学校 3年 松川 良翔

僕たちが生きている社会は、多くの人が協力し合って成り立っています。その中で欠かせないものの一つが「税金」です。税金と聞くと、大人が払うお金だというイメージが強いかもしれませんが、よく考えてみると、税金は僕たちの生活のすぐそばに存在しています。学校の校舎や教科書、道路や公園、病院や消防署などほとんど税金によって支えられているのです。つまり税金は、みんなが安心して暮らすための「共同のお金」だと言えます。

では、未来の社会では税金はどのような形になるのでしょうか。私は、今よりもさらに「使い道が見える」ものになると思います。現在は税金がどこにどのくらい使われているのか、正直なところ、中学生の僕にはわかりにくいです。ですが、テクノロジーが進歩した未来では、スマートフォンやパソコンからリアルタイムで「自分の払った税金がどんなサービスに使われているか」を確認できるようになるかもしれません。そうすれば、税金を払う義務ではなく、「社会を良くするための投資」だと感じられると思います。さらにA Iやロボットが広がる未来では、働き方も今とは大きく変わるはずです。人間が働く時間が減る代わりに、機械が多くの仕事をするようになるかもしれません。そうすると、所得税のように、「働いた人の給料からとる税金」だけでは成り立たなくなってしまうかもしれません。その代わりに、ロボットやA Iが生み出した利益に税金をかける、「ロボット税」のような

仕組みが登場する可能性があります。これによって、人が安心して働きすぎずに暮らせる社会がつかれるのではないかと思い、考えてみました。

僕たち、中学生にとって「税金」とは、遠い存在のように思えます。しかし、やがて僕たちは働き、税金を納める立場になります。そのとき、税金を「仕方なく払うもの」と考えるのではなく、「未来をつくるための力」だと感じられる大人になりたいと思います。そして、自分の納める税金が、次の世代にとって希望のある社会を形づくる一部になることを願っています。